

第19回若手の集いを終えて

実行委員長 倉科 昌*

日本海水学会第70年会開催の前夜、2019年6月5日(水)18時から恒例の第19回若手の集いが行われました。会場は pacific diner TOP OF THE WORLD という大層な名前でしたが、徳島市の繁華街の中心にあたる紺屋町(こんやまち)にあるアクティ21というビルの最上階ではあります。このビルは徳島市での飲み会のシンボルのようなものでして、徳島に縁のある参加者の方が、ここの前に集合してから飲み会に繰り出した思い出を懐かしそうに語っていらっしやいました。

参加者は26名で学生が2名と少なかったものの、交流のために初めて参加された方で企業の方が数名いらっしやったのがありがたい事でした。参加して下さった皆様、本当にありがとうございました。

集いは当学会副会長で横浜国立大学の上ノ山周先生、そして当学会参与であり長年若手会をご支援してくださっているサンアクティスの東郷育郎様のご挨拶と乾杯から始まりました。貸し切りパーティ用の会場であり、食事がビュッフェで飲み物もカウンターまで取りに行く形式だったので、席が固定されずに交流を深められたのは良かったかと思えます(写真1)。

会の半ばで、日本大学の松本真和先生が泡盛を参加者の皆様に配られました。これは(公財)塩事業センター海水総合研究所 前所長の長谷川正巳様が若手会に渡そうと用意してくださっていたものです。わざわざ若手会のために用意していただいていたのですが、直接渡せる状況ではなかったことから、配送を考えていただいていたとのことですが、送る前にご逝去されました。長谷川様がこの日本海水学会 若手会の立ち上げに尽力いただいたのは皆様ご存知の通りです。2017年の日本海水学会誌 第71巻 第2号にも巻頭言で「若手会に贈る言葉」と題してその思いを伝えていただいております。その中では、この若手の集いが、著名な研究者・技術者と若手が交流できる、他の学会にあまりない特徴的な会として紹介されています。この泡盛は長谷川様の奥様が、松本先生に預けていただいたものでした。長谷川様に感謝と追悼の意を表し、献杯をさ



写真1 集いの様子

せていただきました。

最後に、(公財)塩事業センター海水総合研究所 所長の吉川直人様に締めのご挨拶をしていただきました。私はまだ年会の準備が残っていたためにそのまま帰ってしまいましたが、徳島の夜をその後も楽しんでいただいた方もいらっしやったかと思えます。

今回の若手の集いにおいても、日本海水学会の皆様、若手会会員の皆様、多くの方のご支援を頂きました。深く御礼申し上げます。実際の所、私が行ったのは会場を予約した程度です。(公財)塩事業センター海水総合研究所の中村彰夫様および正岡功士様には参加申込受付や参加者へのご対応をしていただき、当日の受付や集金、収支報告まで中島聖珠様をはじめとする皆様で行っていただきました。私は年会の用意のために開場すぐには着くことができませんでしたが、おかげさまで混乱なく開始することができました。

今年度に行う今後の若手会主催のイベントは「第6回海水・生活・化学連携シンポジウム」と「第11回学生研究発表会」となります。第6回海水・生活・化学連携シンポジウムは11月14日(木)～15日(金)に福島県双葉郡富岡町で開催する予定です。また、第11回学生研究発表会は令和2年3月10日(火)～11日(水)に鳥根県松江市で開催する予定です。詳細は本号および次号の会告をご覧ください。多くの方のご参加をお待ちしております。今後も若手会をよろしくお願い致します。

* 徳島大学 (〒770-8506 徳島県徳島市南常三島町2-1)
TEL: 088-656-7418, E-mail: kurashina.masashi@tokushima-u.ac.jp